

令和6年度 大阪市立横堤中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	83	67	62	2.5	8.5
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	87	75.8	59.8	57.4	57.8	59.1	3.1	3.1	11.8	3.1	6.3
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	53.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.3	6.5
	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	52.4	53.6	5.3	5.0	14.8	5.0	6.9

※ 3年生の理科はB問題を選択

**令和6年度 大阪市立横堤中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—**

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査

<国語>

- 平均正答率の「対全国比」においては1.20(+8.9P)であり、全国平均を上回る結果となった。また、平均無回答率の「対全国比」においては0.61(-1.4P)であり、これも全国平均を大きく上回る結果となり、この調査に対して最後まで粘り強く取り組む姿勢があらわれている。
- 領域の平均正答率においては、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が+11.5P、「情報の取り扱いに関する事項」が+4.9P、「我が国の言語文化に関する事項」が+6.3P、「話すこと・聞くこと」が+8.3P、「書くこと」が+11.2P、「読むこと」が+6.3Pと全国平均を大きく上回る結果となつた。
- 習熟度別少人数授業やチームティーチングで個に応じたきめ細かい指導を行ったり、グループ学習を取り入れたりしていることが成果として現れている。

<数学>

- 平均正答率の「対全国比」においては1.18(+9.5P)であり、全国平均を上回る結果となった。また、平均無回答率の「対全国比」においては0.75(-2.8P)であり、大きく上回る結果となり、最後まで粘り強く取り組む姿勢があらわれている。
- 領域においては、「数と式」が+8.1P、「図形」が+6.3P、「関数」が+5.6P、「データの活用」が+17.7Pと全国平均を大きく上回る結果となつた。
- 習熟度別少人数授業やチームティーチングで個に応じたきめ細かい指導を行っていることが成果として表れている。計算問題の反復学習を継続して行い、「データの活用」についての学習を多く取り入れていきたい。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

<成果>

- 大阪府と比較して、平均正答率はすべての教科で大幅に上回り、対府比は1.15となっている。教科別では、国語においては大阪府平均を10.6P上回り、10P以上高い結果となっている。社会においては9.4P、数学においては8.3P大阪府平均を上回っている。一方、平均無解答率はすべての教科で大阪府平均より低い。設問に対して、あきらめずに取り組む姿勢を見せている。

<課題>

- 一部教科において、得点分布から成績の二極化が読み取れる。更なる指導方法の工夫改善が必要である。

【今後に向けて】

- 各教科において、どのような力を身につけさせたいかという明確な目標のもと、新学習指導要領に則し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、学びの方向性を見据えた授業づくりを進めていく。

- 生徒が主体的に取り組むことができる授業づくりのために、全教職員が一人一台学習者用端末などのICT機器を更に活用することができる能力の育成を図る。

- 全学年の国語、数学、英語で進めている習熟度別少人数授業や他教科でも実践している協働学習、個別学習、補充学習など個に応じたきめ細かい指導を進めていく。また、学校元気アップ推進事業の活用を進め、放課後学習会や長期休業中の学習会の実施、定期テスト前の自主学習会など、生徒が自動的に学習に取り組む姿勢を育成するための環境整備を更にすすめる。